

夏休み子ども消費者教室 「食で学ぼう！お金の使い方」

1.取組の概要

食分野、消費者教育分野、児童学分野の学生と教員が連携し、各専門分野を生かしながら、小学生向けの講座を実施した。

目的：夏休み期間にあわせて子ども向けの消費者教室を実施することにより、教室参加者が体験学習等を通じて消費者として必要な知識を身につける機会を提供する。

対象：相模原市内在住・在学の小学5年生及び6年生12名、保護者8名

日時：令和5年8月7日(月)

会場：独立行政法人国民生活センター相模原事務所

2.取組に参加した学生

食物学科 3年生7名、4年生1名

現代家政学科 4年生8名

児童学科 4年生4名

募集チラシのイラストは参加学生が作成しました。

3.準備

お店に陳列する食材のカードと食品表示、お金と精算表(ワークシート)の作成

- ・じゃがいも(相模原産135円、静岡県産198円、北海道産270円)
- ・にんじん(町田市産76円、北海道産81円、中国産100円)
- ・たまねぎ(小田原市産200円、兵庫県産196円、中国産176円)
- ・豚肉(香福ぶた738円、鹿児島さん655円、イベリコ豚915円)
- ・米(普通のお米400円、無洗米440円)
- ・調理用加熱済み野菜(290円)



▲作成した食材カード

▶ワークシート



1 棒はかりをつくってみよう!
はかりを作って身近なものを測ってみよう!
講師：(公社)神奈川県計量協会

2 食で学ぼう!お金の使い方
カレー作りゲームから食品ロスや地産地消、お金の使い方を考えよう!
講師：東京家政学院大学のみなさん

3 商品テスト施設見学
身近な商品や家電製品などに潜む危険や注意点を知らう!
講師：(独)国民生活センター商品テスト部

日時：令和5年8月7日(月)12:50~17:00

場所：(独)国民生活センター相模原事務所

対象：市内在住か在学の小学5・6年生

人数：30名(申込順)※保護者の同伴も可

申込方法：相模原市消費生活総合センター

042-775-1779へ電話

申込期間：令和5年7月7日(金)~7月31日(月)

持ち物：筆記用具、30cm定規

主催：相模原市 共催：(独)国民生活センター

イラスト協力：東京家政学院大学 学生

参加費無料

会場案内図(中央区弥栄3-1-1)



「食とお金」ワークシート

計画を立ててから買物しよう!

今日の予算は1,000円です

スマイルスーパーマーケット
(領収書)
あいせいでん
相模店
東京都町田市相原町2600
電話 042-782-9811
2023年7月22日

じゃがいも _____円
_____個 _____円
にんじん _____円
_____個 _____円
玉ねぎ _____円
_____個 _____円

合計 _____円
(内消費税込み)

点数 _____個

上記まさに購入いたしました
お預り _____円
お釣 _____円

①産地と価格を確認しましょう!

②食材を選んだ理由を考えよう!

③買った品物と個数と金額をまとめよう!

商品名	単価	個数	金額
	円	個	円
	円	個	円
	円	個	円

④買物の合計はいくらですか?

_____円

⑤お釣はいくらでしたか?

_____円

4.当日の様子

①カレーを作るための買い物

- ・参加する小学生が各4名のグループに分かれ、2,000円の予算でカレーを作るために、何をかうかを相談する。
- ・上手な買い物をするために必要な材料、数量、予算の範囲で買い物ができるかを確認する。
- ・必要な材料を買いに行く。

※表示をよく見て各食材の産地と価格を確認しながら買い物する。

買ったものや数量、金額をメモをする。

②参加する小学生の発表とコメント

小学生が買った食材と合計金額、その食材を選んだ理由を発表し、それに対して教員と学生がコメントする。

③みんなで考える

「地球にやさしい食べ方や買い物の方法」を食品ロスや地産地消の観点から考える。

相模原市産

香福豚 豚バラ肉

消費期限 2050/11/17(10℃以下で保存)

100g 当たり 296 円

内容量 250 g

738 円

加工者：東京家政学院株式会社

神奈川県〇〇市〇〇町〇〇

名称	精米		
	産地	品種	産年
原料玄米	千葉県	コシヒカリ	2049 年産
内容量	2 kg		
精米時期	2050/5/7		
販売者	東京家政学院米穀株式会社 神奈川県〇〇市〇〇町〇〇		

1 3 9 6

▲作成した食品表示

▶当日の子どもたちの様子



5.参加した小学生の様子と実施後の感想

(相模原市消費生活総合センターによる結果報告より)

①参加した小学生の取り組みの様子

各班それぞれが、2,000円という限られた予算の中で、産地や単価の異なる様々な食材から人数分のカレーを作るために活発に意見を出し合い、計画を立てていた。予算を最大限使い切れるように食材を選択する班や、地産地消を考えて食材を選ぶ班など、班ごとに特徴が出ていた。

②実施後の感想

参加したすべての小学生が「楽しかった」と回答した。その他のコメントは以下のとおりです。「お買い物ごっこで実際あり得ることを学んだから。」「グループの人たちと一緒に物が安い！なぜ、そうなのかまで考えた。」「お金の使い方や、上手な買い物のし方がわかった。」「お金の使い方を実際にためしてやったからわかった。」「地球にやさしいということも分かったし、お姉さんたちが教えてくれてよくわかった。」「大学生のみんながいっしょにやってくれたから、わかった。」

6.取組の全体を通じた考察

食分野、消費者教育分野、児童学分野が連携しながら、学生が学んだ知識を活用し、外部の方々とかかわりながら発信していくよい機会であったと考える。参加した小学生は、学校で地産地消や食品ロスについての基本は学んでいるようであった。今後は、それを自分たちの生活の中でどのように生かし、地球規模で豊かな生活とは何かを互いに考え合えるとよい。

プロジェクト概要

●テーマ

夏休み子ども消費者教室「食で学ぼう！お金の使い方！」の企画・運営

●パートナー

相模原市消費生活総合センター

●担当教員

食物学科 教授 山田正子

助手 樋口誉誌子

現代家政学科 教授 小野由美子

児童学科 准教授 中田範子

●実施期間

令和5年4月～令和5年8月